

## ≪行田特別支援学校の活性化・特色化方針≫

<b>種別</b>	知的障害	<b>学部・学科</b>	小学部・中学部・高等部	<b>R8.5.1 児童・生徒数</b>	(男) 195 (女) 67	計 262
<b>アクセス</b>	<p>HP * <a href="https://gyoda-sh.spec.ed.jp/">https://gyoda-sh.spec.ed.jp/</a></p> <p>&lt; J R 高崎線 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹上駅下車</li> <li style="margin-left: 20px;">朝日バス：佐間経由行田折返し場行 総合教育センター行 工業団地行</li> <li style="margin-left: 100px;">} 「産業道路」下車 徒歩 15分</li> <li>・行田駅下車</li> <li style="margin-left: 20px;">市内循環バス：南大通り線コース 工業団地行 「警察署前」下車 徒歩 5分</li> </ul> <p>&lt;秩父鉄道&gt; 行田市駅下車 徒歩 30分</p>					
<b>&lt;教育課程等&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画・指導計画（プランA・B）に基づき、個々の教育的ニーズに取り組む教育。</li> <li>・卒業後の社会生活を見据えた、複数の教育課程による高等部の教育。</li> <li>・「生(性)に関する学習 手引き」を活用した12年間の系統性のある教育。</li> </ul>						
<b>&lt;学校行事・部活動&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会（小中学部）、体育祭（高等部）</li> <li>・文化祭（全校開催）</li> <li>・地域の小・中・高等学校との交流および共同学習の実施</li> <li>・公共施設等での作品展示や高等部作業班の製品頒布</li> <li>・特体連の各種大会への参加。</li> </ul>						
<b>&lt;家庭・地域との連携&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）導入</li> <li>・学校公開の実施（年2回） ・学区域連携協議会の開催（年2回）</li> <li>・教育相談、巡回相談 ・インクルーシブ研修会 ・保護者自由参観の実施（年1回）</li> <li>・事業所フェアの実施（夏季休業中） ・美術館・博物館、大学による出前授業</li> </ul>						
<b>&lt;進路&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の能力・適性に応じた柔軟な進路指導を行い、本人・保護者が納得した望ましい進路実現を目指す（一般就労（障害者雇用）・福祉事業所・グループホーム他）。</li> <li>・「産業現場等における実習」をとおして、一人ひとりに設定した目標を達成することにより、自己の適性や能力をより確かなものに発展させることで、卒業後の進路を具現化することを目指す。</li> <li>・卒業後は3年間の追指導（アフターケアの実施）を実施。</li> <li>・障害者就労における専門家（就労支援アドバイザー）を外から招聘し、より実践的な研修指導を実施。</li> <li>・高等部発展型生徒の就業体験（デュアルシステム）の実施。</li> </ul>						
	卒業生数	進学	企業就労	福祉的就労	その他	
中学部	14	14（高等部へ）	0	0	0	
高等部	28	0	5	22	1	



# 令和8年度 埼玉県立行田特別支援学校グランドデザイン

## 国や県の動向

- ・学習指導要領”社会に開かれた教育課程“
- ・第4期埼玉県教育振興基本計画
- ・埼玉県特別支援教育推進計画（R7～R9）
- ・生涯にわたる学びの推進
- ・コミュニティ・スクールの推進

## 目指す学校像

- ・自己肯定感を高め、自他共に大切にする児童生徒を育てる学校
- ・共生社会の基盤づくりに向けて特別支援教育の推進に寄与する学校



## 学校教育目標 健やかな成長と幸福を目指す 地域と共にある学校

### 重点目標【支援】

#### 児童生徒の個の課題に向き合う校内外支援体制の充実

- ① 学び続ける教職員集団と内外専門家との連携した指導体制
- ② 教員の力量形成を支える校内支援部の役割の充実
- ③ 「行特虎の巻」による環境設定・視覚支援・教材等の充実
- ④ アセスメント活用による実態把握、目標設定・指導内容の選定までプランニングできる専門性の向上
- ⑤ 学区域連携会議・インクルーシブ研修会・就学の教育相談・巡回指導での地域の特別支援教育力の向上
- ⑥ 学校公開講座、研修会への参加

### 重点目標【自立】

#### 個々の教育ニーズに応じた本人主体の学習活動の推進

- ① キャリア教育及び自立活動の視点を踏まえた指導の充実
- ② <ハッピーライフプロジェクト>「生（性）に関する学習手引き」の活用による系統性のある教育実践・保護者等相互理解
- ③ 中学部・高等部での作業学習の段階的発展  
(中：紙工芸班、木工班、手芸班、農園芸班)  
(高：木工班、軽作業班、手工芸班、陶芸班、農園芸班、紙工芸班、メンテナンス班)
- ④ 高等部での卒業後の社会生活を見据えた複数の教育課程の編成  
(発展型・充実型・基礎型)
- ⑤ 高等部（発展型）作業学習における就業体験（デュアルシステム）や就労支援アドバイザーの助言をふまえた社会と近接した学習

### 重点目標【連携】

#### 地域社会との連携による相互理解と共生社会への土台づくり

- ① 公共施設等での作業学習の製品展示・頒布
- ② 事業所フェアの開催による進路実現のための情報発信
- ③ 学校公開講座、研修会の開催
- ④ ボランティア養成講座と学校ボランティアによる授業支援
- ⑤ 近隣小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習
- ⑥ 連続性ある多様な学びの場としての学校公開、教育相談の実施
- ⑦ 他学部の実践を知る機会ともなる保護者自由参観の実施
- ⑧ 地域で学び、活動するコミュニティ・スクールの推進
- ⑨ 美術館や博物館、大学等による本物体験の出前授業

## 学部目標

小学部  
【ともに まなぼう いきいきと】

中学部  
【社会の中で健康的で豊かな生活を送るための基礎となる力を育てる。】

高等部  
【人間として豊かに生き、すすんで社会参加できる力を育てる。】



「行特虎の巻」  
埼玉県立行田特別支援学校が作成した【虎の巻】は、本校の教職員が日々の教育実践の中で作成した教材・教具や整備した教室環境をまとめたものです。  
ワークシステムやトランジションエリア表示を活用した実践集も載っています。  
【虎の巻】は第2巻まであります。

「生（性）に関する学習手引き」  
基礎編、行特シラバス編、実践編から編成され、全体指導計画、重点目標及び各学部の目標、年間計画、学習に関する理念やルールなどが示されています。

## 健やかな成長と幸福を目指す

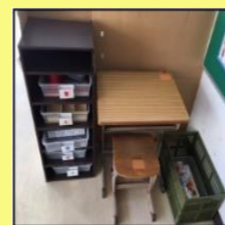
デュアルシステム（就業体験）



本校における生（性）に関する学習



マラソン大会



「行特虎の巻」実践例



## 地域と共にある学校

カインズ行田店での頒布会



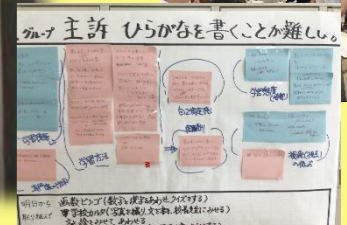
事業所フェア



職場見学



インクルーシブ研修（地域の小・中学校の先生と合同の研修）



埼玉県立行田特別支援学校

児童生徒数：262名  
小・117名 中・55名 高・90名